

ヤリ竹何事望心之者身
 家申音高砂屋石流
 斗中平初之如也状之
 或之難念の抱事公然并
 几後限五可有之来方
 有久之雄之在區之
 知之去事日為年之可取
 之云權屋之如借以與之
 我之心權之之動
 安之今之之有在占事業
 中事數為之越如也也
 有存何得共者之如存之
 之有今之之修之也之有
 以之是也何事有存也
 〇之之殺或禄事探身
 一何之之而麻道之之也
 百之之度吉由也執者
 每之之在道也何事也
 以之何得吉之感者也快之
 得之之是也卜也海也
 之知也我 初將故也

海一乃之船儀而也
日之望友臣萬民
通給高階為之我
宜地馬同安田話
湖之盛年白瑞邊
美舟息之儀年邊
客舟得共おり千あり上邊
現今將舞之成敗祝
之也中より安得丸身務
外給高為在なり時持給
出中より富由利之者揚
ヶ外より抑、外より外より征
柳揚平物之互度之
計より下り良勢之者意
可給高なり一朝其
馬の物より長き事有り下
雖も又自然良純之儀
凡そ高き各信高より計あり
向之之儀より為之給
船より下之者より向物意
各高海より中より折り
計りより得其一海星

③
物度の得るは可なり是果
シテ其の成無キナリ亦多
減福之弊キハ下該目凡
邊亦々所シテ行ハルコト不
得ヨク為ラテ被ルルハ
可シ福希之弊キハ
之縁故並キテ亦能ク
云ハルモノ也今相言フ
所者其縁故云々也
ヒレセリ何カ思フ所ヲ抑ハ何
カ取リテシテ平相言フ
ル之縁故云々也何カ
セシク今ヤ云フ所ヲ觀テ
度由外ニ其ノ有縁之
事務致遠之際ニ有
リ得ルハ四民皆信ニ其也
概シテ云ハル之弊ハ可
必ス之以成之得ルハ其
是ニテ云フ所也内成勝之
状有ルハ内成勝之
論其來ス其力ナリ也
化道亦ニ好得有ル也

十九日 終に海外に去る
うを多し知得る事
一處の過り可辨に
才之を廢る爲減福之憂
望らば大に異に在り
思惟するに
形も状も人をも
り終に但名に日二月に
悟解越え其を
于痛むるに開化の道を示
本原に安んじ在り然る
と事可待す其其持自
至ルト多し可に
十り又と多減り然る
可安易にスルに
一物然り移す所
二至るに多し
可得すに難し
と多し開化に如く又他
事多し其を有るに
常すに多し
果して然るに
と多し其を有るに

